

農業委員会 だより



尾崎小学校稲刈り体験（関連記事は3ページ）



新年のごあいさつ

由利本荘市農業委員会

会長 佐藤 系悦

あけましておめでとうございます。

皆様には、日頃より農業委員会活動につきまして格別のご理解とご協力を賜り、深く感謝申し上げます。

昨年は、夏場の渇水状態が続き農業用水の確保に大変苦慮しましたが、その後の回復により作況指数は103の「やや良」となりました。また、平成27年産米概算金が昨年より上回りましたが、農業経営の改善に向けてはまだ道半ばというところです。

一方、政府は遊休農地等への課税強化・軽減のあり方について早期に結論を得るとの閣議決定や、農業協同組合、農業委員会、農業生産法人の一体的な見直しを行い、関係法令が、本年4月1日に施行されます。このように農業と農地をめぐる施策が大きく変化の中で、TTP交渉が大筋合意され、農業分野では重要5品目を含めて大幅な市場開放が迫られることとなり、農業もグローバル化へと大きく動くこととなります。関税の撤廃等により国外から安い農産物が流入し国内農業に大きなダメージを与え、それにより地域の疲弊が一層進む懸念は拭えず、影響は計りられません。

政府は、その懸念を払拭するため、TTP関連政策大綱で、打撃を受ける恐れのある米や牛肉など重要5品目については、影響を緩和する経営安定策の拡充で「守り」を固めつつ、地域の強みを生かして国際競争力を高める産地改革や、生産コストの削減と品質向上、農家の収益力強化を目指す「攻め」の農業への転換を明記していますが、具体策は何も見えていません。

農業は食という人間の根幹を支え、土地・風土・人を作り、そして守ってきたものです。それは、これからも守っていかねければならないものです。その貴重な、受け継がれてきた財産ともいえる農業を守るために、農業者の方々からのご協力を得て、関係機関や団体と一層連携を深め尽力していきたいと思えます。

皆様には本年もご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。併せてご多幸を祈念し、新年のあいさつといたします。



県道から菜の花を

(菜の花で農業・農村を元気に)

NPO法人あきた菜の花ネットワーク 鈴木秀雄

NPO法人あきた菜の花ネットワークでは今年度、耕作放棄地再生利用緊急対策交付金を活用し、東由利原の耕作放棄地を再生させる事業を行いました。その背景には、本法人の趣旨である「菜の花から秋田県の農業・農村を元気に！」という思いとともに、「連作が難しい菜の花の圃場を拡大し、安定した数量を確保するという目的もありました。

ですが最大の目的は県道から直接菜の花が見えるようにしたかったからです。5月末に「鳥海高原菜の花まつり」を矢島町桃野で開催していますが、会場が県道から奥に入っているため、県道を偶然通りかかった方は菜の花を見る事ができません。県道から見れば偶然通った方も菜の花畑をご覧になることになり、興味を持っていただけると思えました。

今回の農地再生では、多くの課題がありました。10年以上耕作放棄されていた影響で立木が多く、また鳥海山の近くということもあり石が大量に散乱しており、作業

は困難を極めました。また一部を除いて赤土や粘土層が広がり土壌の再生にも時間がかかる見込みです。



事業実施後



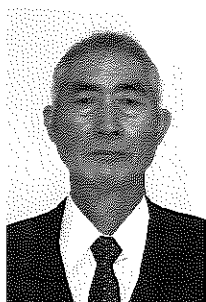
事業実施前

また、既に再生した農地の一部は、2年前から鳥海高原において由利本荘市と秋田市の歩こう会の方に参加いただいて、ウォーキングツアーと、とうもろこしなどの野菜の収穫体験を行っており、「鳥海高原のファンになった！」という声にもふれています。耕作放棄地の再生が、農業、スポーツ、観光という分野の融合につながったというわけです。

今後は、菜の花はもちろん、蕎麦、とうもろこし、ジャガイモ、たまねぎの安定生産と栽培技術の向上を目指したいと考えています。特にたまねぎに力を注ぎ、お店に地元産のたまねぎがたくさん並ぶようにしたいと思えます。

会長職務代理者を選任

前会長職務代理者の辞任に伴い、平成27年10月7日付で、大場弥吉氏(鳥海地域)を会長職務代理者に選任しました。よろしく申し上げます。



小学生稲刈り体験

平成27年11月8日に尾崎小学校の稲刈り体験が行われました。

強風にもかかわらず、子供達は稲を刈る役と刈った稲を受け取る役の二人一組になり、地域の方々に協力をいただきながら、元気に稲刈りを楽しんでいました。

また、由利小学校と岩谷小学校でも稲刈り体験が行われ、地域の方々から鎌の使い方など教わりながら、一所懸命に稲を刈り、農業の大変さと楽しさを体験しました。



岩谷小学校



由利小学校



大内地区有限会社あぐり大内総務担当 菊地 洋

農政転換への挑戦

建設業界において、公共事業が減少している経営環境に加え、減反や高齢化で農地が荒れつつあり、農業を何とかしなくてはならないという、橋本一康代表取締役の思いもあって、菊地建設株式会社の農業部門として平成18年に設立されました。

設立当初から健康志向野菜のグラパラリーフをはじめとした新規品目へ意欲的に取り組み、冬の燃料高騰や販売先の確保等の課題に直面しながらも、現在ではハウス栽培の小松菜や水菜を地元スーパーで販売し、好調な売れ行きとなつていきます。特に小松菜は「ちぢみ小松菜」という美味しい品種で根強い人気です。

水稲作付けも年々拡大し、現在は16haとなりました。トラクター等の農業機械や乾燥調製設備は、兼業農家の社員から借り受けることで設備投資を抑えています。また、規模拡大に伴い、田植機やコンバインを新規に購入したり、JAのカントリーエレベータを利用するといった対応もしています。



鉄道コンテナに積込み首都圏へ出荷される

生産した米は、3割程度を首都圏の商社へ直接販売することで、販売単価の確保に努めています。圃場のある下川大内地区や上川大内地区では、水田作付けの依頼が年々増えており、積極的に引き受ける方針です。しかし、依頼される圃場が必ずしも立地条件の良い圃場とは限らないため、できるだけ連担化した形となるように調整したり、補助事業を活用して合筆や暗渠の施工を検討しています。

(佐々木 亨委員)



農業に従事して 岩城地区 前川 善隆

頑張る営農者

農業に従事して

平成26年1月より、農業に従事して2年が経とうとしています。もともと家業として両親が農業をやっていたことから、ゼロからの新規就農者に比べるとスムーズに作業を行えていると思います。地域の方々や行政の方々、農協職員の方々にご指導いただきながら、また、会社員時代の知り合いの応援を受けながら、営業者として一人前になろうと日々精進しています。

現在、個人で稲作を、法人で原木椎茸と野菜を生産しています。



稲作にしろ、原木椎茸にしろ、決して簡単な作業ではないので、毎日時間がとの闘いです。とはいえ、生産物の成長具合や1年を通した工程がすべて頭に入っていないために、まだまだロスが多いのだからなと感じています。モノを作るというものは、ほとんどが年に1回しかないので、これから経験を積むしかないのかなと、歯がゆい気持ちになります。

農業を始めて楽しいと思うことはたくさんあります。様々な機械を操作することや、農産物の成長に驚くこと、それを梱包して対価を得ること、よくできた仕組みだなと思います。

その中でも特に楽しいのが山作業です。すごく疲れるし、全然上手に作業できなし、未熟なのでやらせてもらえない作業もあるので、山に入りながら自然のことを色々教えてもらえることが楽しいです。時間があるならもっと山に入りたいたいと思っています。会社員時代も楽しいことが多かった

ですが、体を動かしていることから、心身ともに充実していると感じています。

私が今、一人前にできることは営業くらいしかないと思っっています。生産に関しては父と協力しながら生産量を増やし、技術は少しずつ覚えていくとして、モノを売るといふことに力を注いでいければと思います。

また、今年は3年目となるので、予実管理を導入し、効率的な農業経営の実践を心がけたいと思っています。

(木村 勝三委員)

農地に関する Q & A

Q 普通のサラリーマンですが農業を始めることはできますか？

A 農地法や農業経営基盤強化促進法の要件を満たせば、農業委員会の許可や承認を得て農地を買ったり借りたりすることが出来ます。

新たに農業を始める場合は、営農計画書を提出していただく場合がありますので、農業経営に関して準備しておくことをお勧めします。



農業に チャレンジ

東由利地域 遠藤 正直

平成17年に茨城県にある農業専門学校の鯉淵学園を卒業し、その年の3月から実家に就農しました。

我が家では稲作を中心に黒毛和種の繁殖を経営していましたが、私が就農してからは和牛繁殖を主力とした経営を目指し、平成27年に県の元気な中山間応援事業を活用して牛舎を1棟増設し、和牛繁殖増頭に向けて取り組んでいます。

鯉淵学園4年生の時に家畜人工授精師免許を取得し、卒業してすぐに家畜受精卵移植師免許を取得しました。現在は実家の雌牛を中心に受精師業務に取り組み、受胎率向上を目指し頑張っています。今後は受精卵移植にも積極的に取り組んでいきたいと思っています。

生き物を飼育するということは、思ったように大きく育てられなかったり、繁殖がうまくいかなかったりと、一筋縄ではない場合が多いのですが、家族や仲間周りの方々からアドバイスをもらって、乗り越えてきました。

将来は、WCS(※)・飼料米などを活用して、新たに建設した

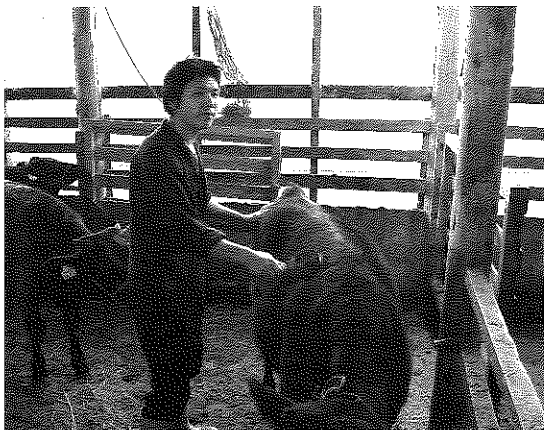
牛舎をいっぱいにして、東由利の和牛繁殖を引っ張っていきけるようになることを目標に、取り組んでいきたいと思っています。

【所感】

家族経営協定を結んで農業全般に目配せして頑張っている、フレッシュな正直さんです。

(古閑 幸子委員)

(※)WCS(ホールクロップサイレイジ)は稲の実と茎葉を同時に収穫し発酵させた牛の飼料



全国農業新聞

NATIONAL AGRICULTURAL NEWS

週刊 金曜日発行 月700円、年8,400円 (消費税込)

購読のお申し込みは市農業委員会へ
お気軽にご連絡ください。

発行所 全国農業会議所
〒102-0064
東京都千代田区二番町9-8 中央労働基準協会ビル
電話 03-6910-1130

いっしょに積立年金

農業者年金で

しっかり積立で、
がっちりサポート
安心で豊かな老後を



生涯現役

本荘地域 須藤 金子ご夫妻

金一さん（75歳）、桂子さん（75歳）ご夫妻は、本荘地域の中心部にお住まいです。

昔からの規模をそのままに水田2ha、減反に野菜を20a、メロンが5a、そして繁殖牛5頭と子牛3頭を飼育しているので、牧草地として55a、WCS（※）20aを経営しています。夜明けとともに起きて仕事を始める毎日です。

桂子さんは朝3時前に起きて、作った野菜を駅前の朝市に持って行き販売します。桂子さんの人柄もあり野菜はとてよく売れています。今は、長男ご夫婦と一緒に生活していますが、農繁期に手伝ってもらうほかは、お二人で仲良く働いています。我慢強い性格と手先の器用さから、びつくりするほど多くの仕事をこなしています。

金一さんは農作業のかたわら旧本荘市中央土地改良区の理事長を長く務められ、地域農業の発展に尽くされました。

金一さんにこれまでを振り返った感想を聞いてみると、「人に迷惑をかけないようにということを胸に、

苦勞を喜びに変えて生きてきました。農業を天職として、これからの体の動く限りやり続けていきたい」と笑顔で話されました。

今までも地域のリーダーとして頑張ってきたが、これからは経験豊富なご意見番としてますます活躍いただきたいと願っています。

（佐藤 和子委員）

（※）WCS（ホールクロップサイレージ）＝稲の実と茎葉を同時に収穫し発酵させた牛の飼料



田んぼアート

本荘東中学校



本荘東中学校では毎年「田んぼアート」に取り組んでいます。

生徒会が中心となつて企画し、今年度選んだ文字は「東のミライ！」。開校十年の節目を過ぎ、新たな未来を切り拓いていくという想いを込めました。

校舎から一望できる水田をお借りして、この行事を行っています。

また田植えから稲刈りまで、地域の方々の指導をいただき、今年も無事収穫までたどりつきました。

収穫した古代米は、こうした方々や自然の恵みに感謝しながら教材として活用し、また古代米の稲藁で高規格を祈願する梵天を制作していただきました。

編集後記

TPPが大筋合意となり、農業を取り巻く環境は、ますます厳しくなると予想されます。

そんな中でも農業を心から愛し、人間の根源である食に関わる仕事に携わっているとの自負の中、頑張っている方々が当市にもたくさんいらっしゃいます。そんな方々を本誌で紹介できればと取材しております。

これからも取材協力をお願いいたします。

（佐藤 俊和委員）

農業委員会

◆本庁（事務局）	Tel	24-6258
農政班	Tel	24-6259
農地班	Tel	24-6260
	FAX	24-6396
◆各総合支所（産業課内）		
矢島庶務班	Tel	55-4957
岩城庶務班	Tel	73-2014
由利庶務班	Tel	53-2114
大内庶務班	Tel	65-2804
東由利庶務班	Tel	69-2116
西目庶務班	Tel	33-4614
鳥海庶務班	Tel	57-2205

広報委員

佐藤 俊和	田口 作内	木村 勝三
古閑 幸子	齋藤 誠	佐々木 亨
遠藤 幸男	佐藤 秀孝	佐々木 知榮
佐藤 和子		